

報告者：土方千代子

こんにちは、Bグループ「お役立ち隊」リーダーの土方です。

カンファレンスもとうとう今週末になりました。

今回は、実行委員活動を通じて、様々な課題にぶちあたりました。お聞きしたことで印象に残ったこと、感じたことを抜粋してご報告します。

ITCについて

ITCについての知名度は皆無でした。もちろん、ITC協会についても。

ですので、ITコーディネータです！と言ってもわかっていただけません。

今回の支援活動では、初回アプローチに”ITC”を武器に出来ませんでした。支援活動を通じて、ITCを理解していただいたと思っています。

偶然ですが、訪問した企業にITCを活用されている会社がありました。その企業ではITCをどうやって知られたかをお聞きしました。

・ITCを知ったきっかけ

ITC協会主催で、ITC（講演者）の話内容で、この人なら大丈夫だということで依頼したとのこと。

・ITCの採用理由

日本語をしゃべれること

その企業では、ITCに支援をお願いするために何人かのITCに会ったが、日本語がしゃべれない人が多かったとご指摘を受けました。

皆さん、お客様にお話する時に、カタカナや略語を多用していませんか。

最後に、「企業には、パソコンすら知らない人が多いことを認識して欲しい」とお話いただきました。

中小企業について

大田区をまわって、どの企業も経営者を含めてお忙しいということがわかりました。

大田区企業では、技術開発に力を入れている会社、品質というものを上げていこうとしている会社、2代目

育成をしている会社など、企業によって様々でした。

また、技術水準についていけない、資金力が弱い、人を集める能力がない（人が集まらない）など中小企業の厳しい現実をお聞きしました。

でも、「中小企業も悪い」と自らおっしゃってました。それは、広い世界をみようとしなくて勉強するのが苦手ということだそうです。ただ、現在は勉強したくても、研修会を夜やるようなことはされていないとのご指摘でした。

私は、大田区を回って、「大田区は捨てたものではない」と思いました。

大田区にしかない技術、その会社にしかない技術があり、中小企業が日本の繁栄をささえてきたということを身をもって知りました。これがわかるだけで実行委員になってよかったと思います。（大変でしたが）

そして、変わりたいと思っているが、変わるきっかけがでない企業になんとか後押しできないかと感じました。それは、私一人ではなんともならない大きな課題であり、ITCが集まっても難しい。ITC協会、大田区、支援団体、金融機関、大学・研究機関などの力が必要だと思いました。

私は、この支援活動はカンファレンス終了で終わってはいけないものだと思っています。どのくらい出来るかまだみえませんが、カンファレンス後にも模索していきたいと思います。

尚、Bグループは、支援企業2社への最終報告はまだ終わっていません。

カンファレンス終了後、支援企業へ最終報告と先のみえる地に足のついた提案をメンバーで力を合わせて責任持って実施したいと思います。

” 頑張ります ”